



双塔

カトリック新潟教会

2016年5月
No. 336

聖書の中の「聖母マリアの言葉」

新潟教会協力司祭 鎌田耕一郎

五月は聖母月なので、聖書の中の「マリアの言葉」に耳を傾けてみよう。

- ① 「どうしてそのようなことがありえましょうか、私は男の人を知りませんが」(ルカ 1:34)
これは、大天使に対する言葉である。神の国のための独身と母になることがどのように両立するか戸惑い、その心境の表現であると思われる。天使は神に不可能はないと答える。
- ② 「わたしは主のはしためです。お言葉どおり、この身になりますように」(ルカ 1:38)
この言葉は天使をとおして神に述べられた言葉である。天使の説明に対して、まったく自由に、全面的に神のみ旨に自己を委ねる意であり、ここから救いが始まるのである。
- ③ マグニフィカト(マリアの賛歌・ルカ 1:46)
この賛歌はエリザベトとあらゆる時代の人々にのべられる。受けた恵みの自覚と認識から生ずる神への感謝と賛美である。旧約のいろいろな個所の語句や表現から構成されている賛歌で、マリアのみ心を伝えるものである。
- ④ 「なぜこんなことをしてくれましたか。ごらんください。お父さんも私も心配して捜していたのです」(ルカ 2:48)
これは、神殿で迷子になったわが子イエスに向けた言葉である。これに対するイエスの言葉の意味が分からず、マリアはこれらのことを心におさめ考えあわせていた。神秘を深く考え、味わい、祈る観想はここから始まる。
- ⑤ 「ブドウ酒がありません」(ヨハネ 2:3)
この状況にいち早く気づき、これをイエスに告げる。母の子に対する信頼は絶対であったと思われる。
- ⑥ 「なんでもこの人の言うとおりにしてください」(ヨハネ 2:15)
これは、結婚式の給仕に向けられた言葉である。そして、聖母マリアが私たちに望んでおられるすべてであると思われる。「イエスのおっしゃることを、それがどんなことであれ実行する」それが聖母マリアのお望みなのである。そして、カナの婚姻で問題が解決したことを私たちは知っている。



ご復活おめでとうございます！



3月27日（日）快晴。『復活の主日』は、菊地司教様の司式でミサが捧げられた。

前夜に洗礼、堅信を受けた方々が最前列に並ぶ聖堂には、補助椅子も不足するほどの沢山の人の。

司教様のお説教は、教皇様の回勅「ラウダト・シ」について始められ、「テロなどの暴力によって起きる悲しみや恐怖は、怒りと復讐心を引きずり出す。暴力の連鎖が続く社会で必要なのは、神の愛に基づく“ゆるし”である」、「何とか生活を維持する道ではなく、『人は何のために生きるのか』に答える新しい道の選択を求めることが、復活された主の私たちへの呼び掛けである」と話された。ミサ後は、センター2階で「祝賀会」と「ナジ神父様の送別会」が行われた。ナジ神父様のお別れの言葉や新しい仲間の紹介、神学生の岡さんの挨拶、子どもたちの歌声♪そして、美味しいハヤシライスやサラダ！招かれた人も、送られる人も、送る人も明るい笑顔がいっぱいの会場だった。

■ お帰りなさい！鎌田神父様 歓迎茶話会 ---- 復活節第3主日 4月10日（日）----

約30年ぶりに新潟教会に戻られた鎌田神父様の司式でミサが捧げられた。

福音朗読後、「長い説教は改めました」とお話を始められ、聖堂内は和やかな雰囲気。「イエスがペトロに『私を愛しているか』と問われたことを、私たちは自分の問い掛けとして考えなければならない」と心に響くお話をされた。

ミサ後はセンター1階で歓迎の茶話会。3部屋続きの会場は入り切れないほどの人。「新潟教会は主任司祭一人では負担が大きくて無理です。ヴィアンネ館でゆっくり休むつもりで来たが無理のようだ」の神父様のご挨拶。神父様を囲み、ケーキやお茶を頂きながら笑いが絶えないひと時であった。



今年の聖週間は、下記の日程で行われた。

3月20日（日）受難の主日（枝の主日）

3月23日（水）聖香油のミサ

3月24日（木）主の晩さんの夕べのミサ、洗足式

3月25日（金）主の受難の祭儀、十字架礼拝、聖体拝領

3月26日（土）復活の聖なる徹夜祭、入信の秘跡

3月27日（日）復活の主日

